

「若者が語る関西の将来像」を YouTube で公開します！

～関西広域地方計画若者セミナーの様子を本日から公開します～

近畿地方整備局では関西広域地方計画の検討にあたって、12月9日に「関西広域地方計画若者セミナー」を開催しました。若者セミナーでは、次世代を担う若い世代の方々をパネリストに迎え、関西への思いや将来像について発信するパネルディスカッションを行いました。パネリストから、2050年の関西を見据え、我が国における、関西が担う役割や各都市の特徴を伸ばしていくための方策等について、様々なご意見をいただきました。

若者セミナーの様子を YouTube にて公開します。

- 若者セミナーの様子は以下 URL もしくは QR コードより視聴いただけます。
(本日から半年間公開します。)

<https://youtu.be/vV-nXspYj7E>



イベント概要

- 近畿圏広域地方計画推進室では、総合的かつ長期的な国土のあり方を示す国土形成計画「新たな関西広域地方計画」について、検討をすすめています。
- 新たな広域地方計画の検討にあたり、次世代を担う若者から、関西の将来像や地域インフラの課題等を発信することにより、関西広域地方計画の策定、更には若者が描く関西の将来像の実現に寄与することを目的として開催しました。
- パネルディスカッションのテーマは、以下の3点です。
 - ・関西の課題・西日本の中心である関西の役割等
 - ・就職時に関西から東京へ行かざるを得ない状況について
 - ・関西各都市の特徴を伸ばすためにはどうすれば良いか
- イベント当日は、近畿圏広域地方計画有識者会議座長代理を務めていただいている大阪公立大学研究推進機構 橋爪紳也特別教授にコーディネーターとしてご参加いただきました。

開催日時: 令和6年12月9日(月)14時～15時30分

開催場所: OMMビル天満橋 グラン 101・102(大阪市中央区大手前 1-7-31)

<取扱い>

<配布場所> 近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ

<問合せ先> 国土交通省 近畿地方整備局 近畿圏広域地方計画推進室

近畿地方整備局 企画部 事業調整官 川島 隆宏(かわしま たかひろ)

企画部 広域計画課長 大國 喜郎(おおくに よしろう) TEL: 06-6942-4090(直通)

- 次世代を担う若者から関西の将来像や地域インフラの課題等を発信し、関西広域地方計画の策定、更には実現を寄与することを目的に開催
- パネルディスカッションを実施し若者からの意見を聴取
- 若者から、関西が担う役割やメリット・デメリット、各都市の特徴を伸ばしていくための提案などのご意見をいただいた
- 第一弾(ダイアログ:対話)を3月に開催。今回は第二弾になる

■日時: 令和6年12月9日(月) 14:00~15:30
■場所: OMMビル天満橋 グラン101・102(大阪府中央区大手前1-7-31)
■登壇者: 右記 **■参加者数:** 79名
■共催: 国土交通省 近畿地方整備局・一般社団法人 近畿建設協会
■後援: 一般社団法人 日本建設業連合会開催支部
 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 近畿支部
■報道関係: 4社 日刊建設工業新聞社・建通新聞社・日刊建産速報社・日刊建設通信新聞社
■YouTube: <https://youtu.be/vV-nXspYj7E>



【パネルディスカッションのテーマ】
 ①関西の課題・西日本の中心である関西の役割等
 ②就職時に関西から東京へ行かざるを得ない状況について日頃思っていること
 ③各都市の特徴を伸ばすためにはどうすれば良いか

コーディネーター	
橋爪 紳也 氏	大阪公立大学 研究推進機構 特別教授
パネリスト	
壁 菜々美氏	立命館大学 理工学部 2 回生 (愛知県出身 滋賀県在住 2 年目)
田村 拓也氏	戸田建設(株) (神戸市出身・在住)
中村 遥 氏	中央復建コンサルタンツ(株) (東京都出身 大阪府在住 3 年目)
三木 穂波 氏	高槻市役所 (岡山県出身 大阪府在住 2 年目)
山本 汐音 氏	神戸大学 経済学部 4 回生 (大阪府出身・在住)



【主な意見】
 ①関西は、西日本全体を代表して日本の発展を率いる可能性がある
 ①大企業がUターン、Iターンをしたくなるような、西の拠点という点だけではない特徴や強みをアピールしていく必要がある
 ②自分がやりたいことができる企業に着目すると東京の方が企業数が多く可能性が広がる
 ②関西は、子育てしやすく、都市の便利さもある。また、愛着を抱きやすい地域柄であるなどの理由から、Uターンをしたいという人が多い
 ②大企業だと東京に本社があり、関西で働く支店勤務にしかない
 ③大阪は、今後、北陸新幹線やリニアなどの延伸による交通網の発達や新大阪・関西国際空港・伊丹空港などのアクセス拡充を行うことができれば、さらに良い都市になっていくのではないか

③東京に比べて人口集積が少ないのは事実。数より質で勝負することが一人当たりのスキル・役割などで多様性を増やし、関西の多様性が担保されるのではないかと
 ③各地域それぞれの持つ魅力によって観光ならここ、商業ならここ、産業ならここというように役割分担をすることで、それぞれの府県が輝けるのではないかと

【橋爪先生からのコメント】
 ・2050年という未来をイメージして関西が元気であることをもっと考えていく必要があると強く感じた
 ・今回の広域地方計画はシームレスがキーワードであり、新しいものと古いものを活かしながら、地域と地域、更には個人と個人を繋げることが重要
 ・日本の中の関西ではなく「世界の中の関西」にシフトしていくべきである